

第2回「富士見丘地域における教育環境懇談会」概要

日 時	平成26年8月1日(金) 13:30～15:30
会 場	富士見丘中学校 視聴覚室
出席者	委員 14名(欠席者 2名) 事務局 9名
配付資料	第1回懇談会議事録 参考資料1 富士見丘小学校、富士見丘中学校指定通学区域児童・生徒の在籍校等 参考資料2 富士見丘小学校指定通学区域の児童の状況について (添付資料：富士見丘小学校通学路図) 参考資料3 富士見丘小学校前交差点横断歩道橋について 参考資料4 杉並和泉学園リーフレット 参考資料5 杉並区立新泉和泉小学校、杉並区立和泉中学校(杉並和泉学園)配置図・平面図
議事次第	1 開会 2 通学路の安全確保について 3 施設一体型小中一貫教育校について 4 閉会

第2回「富士見丘地域における教育環境懇談会」議事録(要旨)

1 開会	
会長	ただいまより第2回目の富士見丘地域における教育環境懇談会を開催します。本日は、2人の委員から欠席の連絡を受けております。開会に先立ち事務局から何か連絡事項はありますか。
学校支援課長	区で7月1日付の人事異動がございまして、事務局に変更がございましたのでご報告させていただきます。学校教育担当部長が玉山から和久井に代わりましたので、ご紹介申し上げたいと思います。
学校教育担当部長	7月1日付で学校教育担当部長になりました和久井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
会長	お願いします。他にありますか。
新しい学校づくり係長	懇談に入る前に、本日の配付資料のご確認をお願いできればと思います。委員の皆様には事前に郵送させていただきましたが、前回の懇談会議事録、本日の次第、参考資料1が富士見丘小学校、富士見丘中学校指定通学区域児童・生徒の在籍校等、参考資料2が富士見丘小学校指定通学区域の児童の状況について、カラー刷りの富士見丘小学校通学路図を添付した資料になります。参考資料3が富士見丘小学校前交差点横断歩道橋について、参考資料4が杉並和泉学園のリーフレット、参考資料5が杉並和泉学園の配置図・平面図です。不足している資料等はございませんか。また、本日の懇談会の傍聴希望者はございませんでした。それではよろしくお願いいたします。

2 通学路の安全確保について	
会長	<p>それでは前回の議事録が資料の中にも入っており、ご確認をいただいていると思いますが、第1回目では、この懇談会のスタートということから、事務局からこの会の位置づけや開催スケジュール等の説明がありました。また、富士見丘小学校教育環境懇談会まとめの方向性や課題について再確認を行いました。更に、今後の議論を進めていく上で、杉並区の小中一貫教育についての理解を深めるため、事務局から説明がありました。その上で、委員の皆様からB-2案を実現する上で、地域によっては通学距離が長距離化することや、特別区道に関する事、企業用地の交渉状況、また、富士見丘通りの幅や安全性、都市計画高井戸公園の教育活動における利活用等について、ご意見やご質問をいただきました。</p> <p>小中一貫教育校という方向では、学校支援本部の活動が広がる可能性、新校舎には地域の人たちが利用できる図書館機能などの複合化の案、仮に施設一体型の小中一貫教育校となった場合の高井戸小学校との連携などについてもご意見をいただきました。</p> <p>まず、本日の検討内容として、富士見丘小学校教育環境懇談会まとめの中でも、B-2案の場合、一部地域からの通学の長距離化や、幹線道路横断の負担増などが生じること、放射5号線の整備に伴う自動車交通量の増加が見込まれることから、登下校時の交通安全に配慮するなどの課題が指摘されております。この点について検討していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。それでは事務局から資料の説明をしていただきます。</p>
学校支援課長	<p>前回の懇談会でご要望がありました資料や、通学の長距離化などの課題を検討するための、富士見丘小学校指定通学区域の児童の状況を整理した資料をご用意いたしました。参考資料1及び参考資料2は私がお説明させていただき、参考資料3は調整担当課長からお説明申し上げます。</p> <p>では、参考資料1をお開きいただけますでしょうか。これは、今年度の富士見丘小、富士見丘中の指定通学区域にお住まいのお子さんの在籍状況と、裏面は富士見丘中の生徒の出身小学校の一覧となっております。</p> <p>まず1の富士見丘小の表によりますと、富士見丘小の指定通学区域にお住まいの小学生468人のうち62%、290人の児童が指定どおりの富士見丘小に通っております。指定通学区域の小学校に通う児童の割合は、区の平均が71%ですので、9%ほど下回ってございます。高井戸第二小など、他の区立小学校に通う児童は、20.7%、97人で大体区の平均でございます。他の自治体、これは具体的には世田谷区になりますが、9.8%、46人が通っております。区平均を9%上回っておりますので、先ほどの富士見丘小へ通う児童とは差し引きになるかと思っております。その他、富士見丘小の指定通学区域外から富士見丘小に14人が通っておりますので、今年度の富士見丘小の児童数は304人となっております。</p> <p>次に2の富士見丘中の表でございますが、通学区域に住む中学生455人のうち42.4%、193人が指定校の富士見丘中に通っております。他の杉並区立中に18.2%、83人が通っておりますが、これらは、ほぼ区の平</p>

均的な数値になっております。国私立へ通う中学生は区平均では36.5%になっておりますが、それより若干少なく31.6%、144人になっております。また、世田谷区の中学校に通うお子さんは、小学校に比べ少なくなっているのがわかります。更に、指定通学区域外から富士見丘中に58人が通っておりますので、現在の富士見丘中の生徒数は251人になります。

次に裏面をご覧ください。前回の懇談会で富士見丘中生徒の出身小学校についてのご質問がありましたので、今回ご用意いたしました。平成24年度までは、在籍生徒数の半数が富士見丘小出身で、それ以外の学校全部を合わせ残り半分という状況でした。平成25年度から高井戸小出身生徒が急激に増えまして、高井戸小と富士見丘小がほぼ同じぐらいになりまして、2校で全体の4分の3を占めるような状況になっております。

次に、参考資料2をご覧くださいませでしょうか。まず1の富士見丘小学校指定通学区域の児童数でございますが、町丁目ごとの児童の状況をまとめたものでございます。一番左の久我山1丁目に住民登録している小学生は46人いますが、富士見丘小に在籍しているのは、そのうち15人で比率は32.6%になります。他校では、高井戸第二小の28人が多くなっています。少し右のほうにいきまして、上高井戸1丁目では163人の児童がいるうち62%、101人が富士見丘小に在籍しており、国私立に13人、その他が47人になっております。その他の大半は、世田谷区立小学校へ行っていますが、一部特別支援や海外等も含まれております。同じように、上高井戸2丁目では135人の児童のうち83.7%、113人が富士見丘小に在籍し、それ以外の児童は表記のとおりでございます。

次に、真ん中の2の富士見丘小学校区域への流入・流出でございますが、久我山小の通学区域から1人が富士見丘小に来て、富士見丘小の通学区域から久我山小へ27人が流れているというふうにご覧いただき、26人の流出超過と見ることができます。右のほう、高井戸第二小の通学区域から富士見丘小へ来ている児童はいないが、富士見丘小の通学区域から高井戸第二小へは46人が通い、そのまま46人が流出超過になっております。一番右の世田谷区からは3人が富士見丘小に通っていますが、世田谷区に46人が流れており、43人の流出超過になってございます。

その次の3の甲州街道等を越えて通学する児童の分布状況は、添付しておりますA3の地図も一緒に合わせてご覧いただけますでしょうか。そこに記入してありますA、B、C、D、Eというのは、このA3の地図のA、B、C、D、Eと書いてあるところに合致するものでございます。まず、甲州街道のみ越えて富士見丘小に来るA地域には41人の小学生がいますが、富士見丘小に在籍している児童は26人、世田谷に通っているのは13人、その他2人となっております。次に、環八を越えて富士見丘小に来るB地域には7人の小学生がいますが、全員が世田谷の上北沢小学校に通っております。それから、甲州街道と環八を越えて来るC地域には26人の小学生がいますが、富士見丘小に来ているのは3人で、20人が世田谷に通っております。甲州街道と環八と京王線を越えるE地域には5人の小学生がいますが、

	<p>全員が世田谷の小学校に通っております。</p> <p>次に、一番下4の区域外就学児童の世田谷区立小学校の在籍状況でございますが、AからE地域の小学生のうち、上北沢小と芦花小に在籍している状況になります。ご説明は以上でございます。</p>
会長	次の説明をお願いします。
調整担当課長	<p>富士見丘小学校前の交差点横断歩道橋について説明させていただきます。</p> <p>まず、放射5号線の改良事業の概要を改めて簡単に説明させていただきたいと思っております。本事業区間は高井戸西区間と言いまして、ちょうど環八の中の橋交差点からNHKグラウンドの浅間橋のあたりまで大体約900mですが、この区間を高井戸西区間と呼んでいます。現在、この区間は上下2車線になっています。中央高速の脇に1車線ずつ大体の幅員が50mございますが、中央高速の脇に車道が1車線ずつあるような構造です。これを今度の計画は、中央高速の下に本線を4車線に集約して整備するというのが、今回の整備内容でございます。そうしますと今度は、中央高速の両脇にそれぞれ約15mずつの区間が空きます。その区間は歩道、自転車が通行する自転車レーンや植樹帯などにし、実際の本線は真ん中に移りますので、今まで放射5号線に接道していた道路と分断されてしまうため、副道という形で生活道路に入るための道路をその両脇に作るような計画を考えております。</p> <p>本線の内容につきましては、昨年11月に富士見丘小で地域の皆さんに対して説明会を行っております。それについて皆さんは周知されていると思うのですが、その両脇の沿道空間と言いますか、その区間については地元にお住まいの道路に面している方の意見を聞きながら進めるということで、前回7月5日と6日の土曜日と日曜日に新たな配置計画の話し合いを開催し、5日は地元の方が28名、6日は約20名の参加がございました。地元の方の意見を聞きながら、今後、計画を立てていくという状況でございます。</p> <p>意見聴取は、年内中に3回開く予定になっており、7月に1回開催したので、あと2回の予定で次回は9月ぐらいに開きます。また、地元の皆さんと東京都が事業主体なので東京都と話し合いを進めて、年末には大体の道路計画についてはまとめていくという状況でございます。</p> <p>それでは資料に戻っていただきまして、この図面だとちょっと構造全体がわかりにくいのですが、この図面は富士見丘小前の交差点のところの左側の絵が現在の状況です。上が北側になっています。赤く塗られているのが横断歩道橋で、黄色い部分がいわゆる歩道部分です。それを今回の計画では、先ほど言いましたように、これには中央高速の絵が入っていませんが、大体真ん中に位置しています。右側の図面ですと本線が4車線になっています。それを中央高速の下に集約して両脇の沿道空間ですが、そこの部分は先ほど言いましたように歩道だとか植樹帯にしていくという計画です。それに伴いまして、この歩道橋の中央高速の柱が支障になってきますので、今回、歩道橋自体を架け替えて整備を行う予定になっております。</p> <p>それで絵の下に1の歩道橋の考え方と、2の横断歩道の考え方ということが記載してあります。こちらはもう既に横断歩道橋がございますので、それ</p>

	<p>でなおかつ小学校のお子さんたちが利用しており、実際1日当たり360人程度の利用があるということです。大体低学年の1年生から4年生くらいまでですが、学校で指導されているのでしょうか。こちらを通るように指導されていると思いますが、右側の絵のように架け替えるという計画です。</p> <p>それで、2の横断歩道の考え方ということで記載させていただいておりますが、基本的に原則は交差点で横断歩道橋がある側のところには、下の車道を渡るところには横断歩道を設置しないということですが、今回は横断歩道を設置した案になっています。これは、警察庁の交通規制基準がございまして、こういった考え方がございます。一応、現段階での計画では原則として横断歩道を設置しないという考えが、東京都から示されております。実際、これまで中央高速の脇に車道があったので、そこをほぼ50mくらい横断するような距離があったのですが、今度は中央高速の下に本線を集約する関係で、実際に車道を渡る距離というのは大体16mくらいだと思っておりますけれども、若干短くなる予定です。ただ、現在は横断歩道橋の下に横断歩道がございまして、あるものがなくなってしまうということで、この7月の話し合いの会において「残していただけないか」という意見は出ていました。アンケートを取ったときも、そういった意見も出ております。まだ、東京都は今後2回、先ほど言いましたように2回の話し合いを進めていくと伺っておりますので、最終的に東京都が判断し、あとは警察との協議になりますが、そこで計画ができます。現段階ではこういう案が東京都から示されているということです。この懇談会でも、そういったご意見などがございましたら東京都の担当に伝えたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。</p>
会長	ただいまの事務局の資料説明に対して、何かご質問等はございませんか。
調整担当課長	すみません。現況は33mの横断距離のものが、17mになるということです。図面上に書いてありました。失礼しました。
会長	横断歩道の長さが短くなっていますね。実際には今33mあっても、真ん中は道路ではないですものね。両側が道路で、真ん中は緑地帯のようになっていますので、横断歩道という感じではないですよ。
調整担当課長	<p>島みたいなので、渡りきれないとそこで待たれている方もいるような状況です。今度は少し距離が短くなりますが、ただ、先ほど言いましたように横断歩道橋の下に今は横断歩道がありますが、今度はなくなってしまうという計画です。沿道の皆さんもここを自転車で通られる方が結構いて、コの字型の交差点になってしまうと信号を無視して斜めに横断される方もおいでになるみたいなので、交通安全上の問題も指摘されています。</p> <p>ただ、原則の横断歩道の考え方は、歩道橋があるところは横断歩道を設置しないというルールがあります。ただし、現況は横断歩道があるので、それは地元の声ということでどんどん上げていったほうが、東京都と警視庁が協議する中で、そういったことも考慮されて設計していくと思われま。</p>
会長	ここの交差点には直接の関係はありませんが、現在、真ん中に道路が4車線集約されるという考えですが、この図でいうと歩道から先の右側に中央高速の出口が真ん中にあると思うのですが。

調整担当課長	この図面では納まりきれなかったのですが、そこはまた少し違った構造になっていて、基本的には中央高速の真下に4車線が納まるような構造です。
会長	わかりました。何かご質問はございますか。今、参考資料2で説明がありましたが、富士見丘小の児童の3分の2以上が上高井戸1丁目と2丁目にお住まいの児童であるということでもあります。特に、世田谷区の教育委員会から区域外就学の承諾を得ている地域でもある上高井戸1丁目1番から23番に住んでいる児童は、幹線道路の横断があり、エリアによっては甲州街道と環八の両方を渡らなければならないという現状です。今後、小学校が移転した場合には、更に放射5号線も渡らなくてはならなくなるということですので。このエリアの児童45名は、世田谷の主に上北沢小と芦花小に通学されているようです。通学距離と時間の関係や通学上の安全を考慮してというのが区域外就学の理由ということですが、世田谷の小学校を選択するほかの要因というのは考えられるのでしょうか。
学校支援課長	世田谷の上北沢小も芦花小も改築したばかりで、平成24年にできた新しい校舎ですから、そういった魅力もあるのではないかと思います。
会長	委員の方々、参考資料2の地図を見ながらでも、ご意見をいただきたい。
学校支援課長	芦花小は芦花中と合わせて施設一体型小中一貫教育校になっていますので、またそういった魅力で行っている可能性もあると思います。
会長	逆に、富士見丘小の北側の区域というのは、どこまでが富士見丘小なのですか。素朴な質問ですが。
学校支援課長	井の頭線のところまでが、富士見丘小の区域です。
副会長	久我山1丁目ですか。
会長	井の頭線までも含むんですか。
委員	神田川ではないですか。
学校支援課長	すみません。神田川で切れています。失礼しました。
会長	委員の方々いかがでしょうか
委員	世田谷に流れている子どもたちが、例えば、学校が小中一貫に移転され新校舎になった場合に、こちらに通う可能性も考慮に入れるということですか。現状、46人が世田谷に行かれていますね。それがこちらのほうの学区なので、こちらに入ってくる可能性というのはあるわけですね。もし、本人たちが希望すれば途中ではなくて、新しくなった場合に移ってきますか。
学校支援課長	そうですね。可能性があると考えています。
委員	要するに、今の生徒数よりも40人というのかなりの数なんですが、増えるというのも考慮には入れて考えるということによろしいですか。
学校支援課長	もちろん、上高井戸1丁目のお子さんは、杉並区のお子さんですから、ぜひ杉並区に来てほしいというのは、教育委員会の考え方でございます。
委員	わかりました。
委員	このA3の図で、上北沢小とそれから芦花小ですか。どのあたりにこの地図でありますか。

学校支援課長	まず、上北沢小は、このC区域と書いてあるところを少し右のほうへ行っていただいて。芦花小は八幡山の南ですか。このEと書いてあるところの少し南になるかなと思います。
会長	京王線沿いが上北沢小です。Eというマークの南が芦花小ですか。
学校支援課長	もう少し下の地図から外れていますけれども芦花小です。
委員	芦花小はDの南ではないですか。
会長	芦花小はDの下になりますか。
委員	そうです。このAと記されているところから割合たくさんのお子さんが通っているんです。マンションがあって、そこで大体半分くらい分かれちゃっています。バランスが悪くてしょうがない。地域はなかなか難しい。
会長	Aのところというのはあれですよ。甲州街道を右折できないから裏に回って、脇から回ってくる場所ですよ。
委員	杉並区はずっと何年間かやってきている選択制でしたか、学校の希望制みたいなものが何年か後になくなるような噂ってあるじゃないですか。
委員	それは事実で決定です。
委員	決定ですか。そうなった場合に、この参考資料2のような、例えば、富士見丘小の子が高井戸第二小に流れているとか、そういう結構な人数が行っているじゃないですか。多少理由を言って申請しても「だめだよ」って言われる率が高まっていくってことでしょうか。
学校支援課長	<p>そうですね。制度から少し説明しますと、学校希望制度はこの3年間段階的に廃止ということで、次回27年度の入学が最後になります。ですから、今の幼稚園年長のお子さんが選べるのが最後です。もうその後は、学校希望制度はなくなります。ただし、指定校変更制度があります。要するに、学校希望制度は理由を言わなくても隣接の学校であれば行けたのが、指定校変更制度は、教育委員会で8つの理由を決めてあるんです。例えば、兄弟がいるとか、幼稚園時代に色々な人間関係があったので同じ小学校に行くのはまずいとか、というような場合には指定校以外に行くことができるのです。</p> <p>そこに、理由として特色ある教育が入ったのですけれど、それで、特色ある教育で、例えばこっちに行きたいというふうには書けば、また行けることは行ける制度はあるのですけれども、今みたいに、要するに何にも理由なしで行ける制度ではなくなるということです。</p>
会長	ハードルは少し高くなると。
委員	以前に戻るような形ですよ。
学校支援課長	そうです。指定校変更制度は以前からございましたので。
委員	以前からありますよね。
学校支援課長	理由に特色ある教育が加わったということでございます。
委員	通うのに歩いてどれくらいかかるのですか、通学時間が一番遠い子で。
学校支援課長	一番遠い子で、今は1.4キロくらいです。
委員	時間にしてどのくらいかかりますか。
新しい学校づくり係長	今回の検討テーマが通学路ということで、歩いて実地踏査してみたんですが、八幡山駅から北に向かって甲州街道を渡り、環八を渡り北側の通学路を

	通って富士見丘小の北側の門まで、それほど早く歩いた訳ではないんですけど、大体22、3分というところでした。そこから放5の歩道橋を渡り、企業用地の移転案が考えられている場所まで、約30分ほどかかりました。やはり結構、時間はかかるなという印象を持ちました。
委員	大人がゆっくり歩いて22分とか30分だと、子どもの1年生とか2年生だったら、もうちょっとやっぱりかかるわけですよね。昔ならともかく、今のこんなに交通量が多いと、やっぱり親御さんはかなり心配だよね。
会長	他にいかがでしょうか。向こうは道路も狭いですし、歩道があるわけでもないし、車道にラインを引いている状態ですよね。多少ポールを立てて、歩道を確保している場所も裏道にはあるようですけども。
委員	小学校の懇談会で、スクールバスの検討というのも議題に上がったかと思うのですが、それはもちろん検討していく方向にあるのですか。今の話に関連してなんですが。
学校支援課長	小学校の懇談会のときは、そういった検討も必要ではないかということでございましたが、これまで今回の皆さんと検討している段階でございますので、まだ確定したものではございません。ですから、教育委員会内でどうするかという検討はまだしておりません。
委員	なるほど。それに関連してなんですが、多分、通学路の安全であるとか、もちろん交通の面も含めてなんですけれど、不審者がございますよね。そういった面で、スクールバスの件と線引きが多分難しいとは思いますが、その検討もできればこの中で話し合ってみてはいかがかなという提案なんですけど、いかがでしょうか。
学校支援課長	そういったご意見を今回のまとめの中に入れて、皆さんのご意見はどういうふうだという形で出していければ良いと思います。
委員	指定校変更制度の条件の中には、通学時間が短いからこっちというのはオーケーなんですか。
学校支援課長	通学の安全性というのが確かあったと思うんですけど、ただ、単純に近いからこっちということではないというように聞いております。
委員	距離ではなく、安全性ですか。
委員	でも距離も含まれますよね。安全性の中に。
学校支援課長	そうですね。要素の1つではございますね。
委員	指定校変更制度が3年がかりで元に戻るといえるか、多少厳しくなるということですが、世田谷の上北沢小や芦花小へ行く、世田谷区側の受入条件というのは変わらないわけですか。
学校支援課長	上高井戸1丁目の1番から23番までは受け入れますよという基準になっています。
委員	それは、杉並が今後3年間ということとは無関係に。
学校支援課長	それとは別でございます。
委員	そうすると、とりわけ芦花小ですか。依然としてということ、ある意味では予想されるわけですね。向こうのハードルは同じまいくと。

会長	向こうのハードルは一緒ですね。今回の学校選択制については、富士見丘小は区が一番端なので、あまり区内の中では考えられないですよ。
委員	相手が少なくて、世田谷のハードルは同じであるということですので。
会長	富士見丘小の周りに杉並区の学校があれば、そこへ流れる可能性は高くなるでしょうが、片方が世田谷ですからハードルは一切変わっていないと思うので。他にいかがでしょうか。
委員	富士見丘小の父兄の方から遠くて困るとか、入学時にそういう声はありますか。
副会長	特に、そういう声を耳にしたということはないかなと思います。
委員	では、問題が起きたというようなこともないですか。
副会長	特には、そういったことはございません。
委員	朝、富士見丘小の支援隊のシルバーさんたちで、家の近くに立っている見守り隊みたいな方たちを、大勢要所要所に立っていただいているのを見ますが、この遠くのほうにも立っている方がおいでになるのですか。例えば、実際は甲州街道のほうにもおいでになるのですか。
副会長	この図で人型になっている場所のあたりです。
新しい学校づくり担当係長	青いA地域にも立っていただいております。人型も青で少しわかりにくいですが。
学校支援課長	旧甲州街道の歩道橋の下あたりにいますね。
委員	このPMとかAMとか書いてある、これは人なんですね。
新しい学校づくり担当係長	AM、PMで人の配置が変わります。この位置に人を配置していますということで人型になっています。
委員	でも、比較的、小学校の周りに集中して見張りの方はいる感じですよ、これだと。
会長	ちょうどこの人型のところに、通学安全指導員がいるということです。
副会長	本校の場合、他校より2、3名多いという話は聞いております。離れたところにも立っていただいておりますから。
委員	もう一つ質問で、地図で見るとやはり富士見丘中の場所というか、こちらのB-2案で移転した場合に、久我山小との距離がものすごく近いですよ。地図上で改めてそう思うのですが。区立学校の設置規定みたいなものの中に、前後左右、東西南北の学校との距離ですとか、そういった何か決まり事というのはあるのでしょうか。
学校支援課長	事実、この中学校から見ると久我山小は肉眼でも見えますから、本当に近いですが特に距離の制限というのはないと思います。
委員	距離でなければ、人口に対しての設定ですか。
学校支援課長	どうでしょう。結局もう新しく学校を設置したのは、25年前の永福南小が最後ですから、設置した基準まではわかりません。
新しい学校づくり係長	大宮小と済美小がかなり近い場所に設置されておりますが、そういう距離での規定もなくて、恐らく過去に非常にお子さんが増えたときに、その場所に意外と近い場所でも学校を建てたという経緯はあったかとは思いますが。

会長	<p>参考資料1ですが、富士見丘中に入ってくる人数の中で、3学年までまとまると比較的そんなに差がないように感じるんですけど、現在の1年生を考えると、もう完全に高井戸小が逆転現象を起こしているんです。</p> <p>下級生についてはかなり逆転現象を起こし始めているため、特に来年以降は高井戸小の子どもが増えるので、もう学年で4クラスぐらい高井戸小は新入生がいるそうなので、教室に余裕がないと高井戸小の校長が話していました。そうすると、当然、富士見丘中に来る子どもの数も高井戸小からもっと増えてくるのかなという感じです。</p>
委員	高井戸小が増えた25年度というのは、何か別の要因があったのでしょうか。参考資料1の富士見丘中在籍生徒の出身校、24年度までと25年度で。
学校支援課長	多分、高井戸小が新築で会長の話のように児童数が増えたから、当然に自然増で卒業生が増えたのではないかと。
新しい学校づくり担当係長	その地域のお子さんというのは、少子化なので増えてはいないんです。増えてはいないんですが、高井戸のお子さんたちというか、保護者の方ですか、指定校に行かせるという考え、あるいは指定校に行くという率が非常に高いのです。それが、高井戸小の学校改築が終わったのでますます増えている。ですから、地域全体で考えれば、お子さんが別にどっと増えた訳ではないのですが、指定校に行く率が非常に高井戸小は高いのです。そういうところから、やはり高井戸小を卒業したら我々は富士見丘中に行くのだという、指定校の考え方を非常に高く守っているという傾向が見られます。
委員	高井戸小から富士見丘中に娘が25年度に入学しましたが、そのときに宮前中と高井戸中の学区の子たちが一緒にごそっと入りました。選べるということで、テニスとか。
委員	運動が強いんです。ここはテニス部が。
委員	富士見丘中がいいという子たちが多かったので、この人数になりました。
委員	それもあるってことかな。
会長	学校は、高井戸中のほうがきれいなので。
委員	一時心配していたんですよね。高井戸中に皆持っていかれるんじゃないかと思ってね。本当に。
委員	その前後の保護者とか生徒さんの様子とかで、富士見丘中が結構いいというふうの流れてきました。
委員	うれしいですね。すみません、身内の話で。
委員	部活が強いというのは、特色ではなく、それはどういうことになりますか。
会長	話題としては、例えばテニス部があるから、それでというにはクエスチョンマークはあるんです。ただ、そこの中でどういうふうにしたいか、どうしていきたいからここでとなってくると、可能性は高くなるというような表現なので、そこら辺のハードルは意外に低いかなと思っているのですけれど。
学校支援課長	はっきり答えられなくて申し訳ありません。
委員	現在、上北沢とか八幡山の小学校に通われている子は、「中学校は杉並だよ」というふうなことを言っている人がいますが、現実の問題ってちょっとどうなんですか。

学校支援課長	そうですね。中学校は世田谷に行っているお子さんが少なかったです で、さっきの表でも。だから、小学校は近い世田谷に行ってしまうけれど、 中学校は富士見丘中に来ているのではないですかね。
新しい学校づくり担当係長	中学校は私立に行かれる率が高いのです。小学校の場合は、当然のように 公立を選びますが、中学校に行く段階になると、私立を視野に入れてしまう ので、そういうことの影響はあるかと思います。
新しい学校づくり係長	世田谷区の区域外就学の基準で、小学生以下で上高井戸1丁目1番から2 3番にお住まいのお子さんは受け入れますという形になっていて、中学校は 触れていないので、普通に富士見丘中に戻ってこられるのかなと思います。
会長	でも世田谷の小学校に同級生がいるからと、向こうには入れないんです か。単純に、杉並の理由でいえばそういうのはありますよ。
新しい学校づくり係長	区域外就学の基準には入っていないので、恐らくそういう動きにはなっ ていないのではないかと思います。
学校支援課長	先ほどの参考資料1の富士見丘中のところを見ると、他自治体の中学校は 15名ですから、ということは小学校は向こうに行って、そのまま中学校に 行ってしまった可能性もあります。会長が話されたように。
会長	基本的にやっぱり友達が多いとそちらにという感じがあるのではないで すか。うちの学区域にも知っている子がいるんですけど、宮前中に行っ ている子で、もう目と鼻の先で富士見丘中の近くに住んでいるのですが、宮前 中に行っている子がいますね。
学校支援課長	中学校を選ぶときには、小学校6年のときのお友達関係というのは大きい というふうには聞いております。
副会長	単純に人数のことだけを言うと、確かにこのA、B、C、D、Eにお住ま いの方々は今後どうなるかというのは、世田谷の行政のこともあるのでわか らないことなのですが。ただ、杉並区の指定通学区域というものが、28年 度から区域を大事にしていくという方針が出ている。例年ですと本校の1学 年は毎年50人前後なんです。大体80人ぐらいの就学児健診を行って、国 公立、私立に流れる方、世田谷区を含めて他校に流れる方がいて、大体50 人前後になるのですが、今年については1年生は今65人になっていて、他 の学年より増えてきています。そこは、要するに結果的には参考資料1を見 ると、高井戸第二小に行っている子どもたちは、今、46人が行っていますが、 ここが段々減ってくると思われれます。実際に兄弟関係があったから今年 の1年生で高井戸第二小に入れたというお子さんはいるんですが、兄弟関係 がないと本校ということもあったようです。そういったことで、これからも 人数が増えてくるのであろうなというふうには思います。 そうなってくると、これは4、5年後のことになってきますから、そのあ たりちょっと人数がどう変わっていくか。4、5年経つと単純に1学年10 人増えたとしても、それだけで60人ぐらい変わってきます。結構もっと多 い数字になるとすれば、かなりの人数になります。元々468人というよう な学区域なので、国・私立に流れるとしても、かなり富士見丘小自体が増え てくることは考えられるであろう。そうなってくると、学区域的には富士見

	丘中になりますから、自然に増えてくるのでは、あと何年か経つと、また増えてくるのではないかなというふうに思われます。
会長	という話ですが。でも、高井戸第二小は遠いほうですよ。
副会長	最初は久我山1丁目、2丁目あたりは久我山小に行くのかなと思っていたら、そうではなくて高井戸第二小のほうが直線距離で近いんですね。
会長	線路を渡って真っすぐ上に上がるんですね。
副会長	校舎が新しくなる云々の前から、やはり高井戸第二小のほうが近いということを選んでいました。
会長	確かに、これを見るとそうですね。上に行ったほうが近いですね。あと、校舎が新しくなりましたので。
新しい学校づくり係長	すみません。先ほどお答えした世田谷の小学校を卒業したら富士見丘中という件ですが、資料を見誤っておりました。世田谷の小学校を卒業して、その小学校の区域内にある中学校を希望する場合、区域外就学ができます。
会長	そのまま継続するのか。
新しい学校づくり係長	芦花小に区域外就学して、小中一貫教育校の芦花中を希望した場合は、そのまま希望が通ることになります。訂正させていただきます。
会長	今、色々通学路の安全確保ということでご意見をいただきました。また、委員からスクールバスのことをこの会で検討してはというお話もありました。この地図を見てもおわかりのように、今の小学校であれば、一番左側はほとんど世田谷区との境なので学区はありませんが、ひとまず、南北で考えれば大体真ん中ぐらいの位置に学校がある。そして移転がB-2案となれば、北側に移ってきて学区の外れに移転するイメージになると思います。その辺は、先ほどのスクールバスだとか、色々な部分で教育委員会の関係課で検討いただくことで、お願いしたいということによろしいですか。
3 施設一体型小中一貫教育校について	
会長	それでは次のテーマは、施設一体型小中一貫教育校についてということですよ。B-2案ということですよ、小中一貫教育を施設一体型でという選択肢になっています。先行事例として平成27年からの新泉和泉地区の状況が大変参考になるのではないかと思います。現在、和泉中のところを建て替えて、和泉中は新泉小へ仮移転している最中ですが、そのようなことも含めて、事務局から説明をお願いします。
学校整備課長	お手元にご用意いただきます資料は、ご配付しておりますカラー刷りのリーフレットとA3の杉並和泉学園の図面を使用しまして、ご説明をさせていただきます。杉並和泉学園は来年の4月に開校いたします。これは、杉並区初の施設一体型小中一貫教育校で、区立の新泉小学校、和泉小学校、和泉中学校の3校からなる学校でございます。 今、この懇談会でご議論をいただいております富士見丘小と富士見丘中のB-2案というのは2校でございます。この学園と成り立ちやベースは違いますが、ここでご議論いただく参考になると思いますので、杉並和泉学園について少し詳しくご説明させていただきたいと存じます。 場所は和泉2丁目17番14号に設置をするもので、この校地は和泉小

と和泉中の2つの学校の校地でございます。工事は平成25年7月から着手しまして、完成は平成27年3月で、同年4月に開校するという運びになっております。新しい学校でございますが、鉄筋コンクリート造の地上4階建てで、敷地面積が約1万7,900㎡でございます。この1万7,900㎡という土地ですが、和泉小と和泉中を合わせた校地になっております。例えばB-2案ですが、富士見丘中の敷地は約9,900㎡でございます。企業用地ですけれど、できればこの用地を活用したいと思っておりますが、そこが約7,400㎡あります。この2つを合わせると約1万7,300㎡になりますので、杉並和泉学園とほぼ同じぐらいの面積になります。ただ、用途地域や児童・生徒数が違いますし、土地の面積がほぼ同じと申ししましても土地の形状が違いますので、全くイコールでは議論できないところもございます。土地の面積の数字だけを言えば、ほぼ似通っているということが言えると思います。カラーのリーフレットを1枚おめくりください。完成予想図がございますが、敷地面積は先ほど申し上げました約1万7,900㎡でございます。建築面積が約6,600㎡、延べ床面積が小・中合わせて約1万4,600㎡となっております。

それでは、A3の平面図でこういった特徴の学校を作っているのかということをご説明させていただきます。まず最初に配置図というのがございます。配置図の右側に校庭がありますが、実は、今ここには校庭の神田川沿いに和泉小が建っていて、そこではまだ和泉小の児童が勉強をしております。校庭の左隣の上部に小学校棟というのがありますが、ここは和泉中の校庭でグラウンドでした。その下の中学校棟ですが、これは和泉中になりますが、旧和泉中の校舎を改修しております。かなりの大改修となりますが、改修して中学校として使うこととなります。中学校棟の上にある小学校棟は新築しております。先ほど説明しましたが、右側の校庭の神田川沿いに旧和泉小があります。この校舎を使い、ここで和泉小の児童は勉強や体育の授業などを行いながら、改築、改修工事を待っているということでございます。

和泉中の生徒は、新泉小を改修して新泉小の児童と1つの学校で勉強しています。和泉中は一度引っ越していただいております。そして、杉並和泉学園が完成した後は、和泉中が戻ってきて、そして新泉小の児童たちもここに移り、旧校舎に元々いる和泉小の児童たちも含め一緒になります。

先行して、新泉小の児童と和泉中の生徒が新泉小学校で一緒になり、約1年間一緒に授業を行い生活を共にするという事で、小中一貫教育が事前に杉並和泉学園がオープンする前から、交流を深めるというような意味も叶えることができるのではないかとこの予測のもとに考えた計画でございます。

1枚おめくりいただきまして、1階の平面図がございます。下の部分が中学校棟、上の部分が小学校棟でございます。真ん中のあたりに職員室があります。職員室の面積が非常に大きいのですが、小学校と中学校の先生は同じ職員室にいることとなります。小中一貫教育校ですので、教員間の連携を図るためです。小学校の先生と中学校の先生では、いわゆる文化が違うということを中心に聞きますが、そういったことも一緒にやっていかなければいけ

ないし、カリキュラムを一緒に進めていくというようなことから、職員室は1つにしております。また、普通教室やそれぞれ特別教室などを設け、更には1階の中学校部分での特徴としては体育館です。体育館は、小学校と中学校に別々に設けております。この左の下のところに大アリーナがございますけれど、ここが中学校の体育館になります。そして、小学校部分での特徴としては、右の上の端になります。学童クラブを設置し、その左隣には小学校の特別支援学級がございます。そこから真っ直ぐ下におりていただきますと、中学校にも特別支援学級を設けることにしております。

1枚おめくりいただきますと、2階の平面図になります。こちらには普通教室と特別教室などがございますが、ここに小学校のアリーナとして体育館を右上のところに設けております。

また、1枚おめくりいただきまして、3階の平面図ですが、ここはほとんど普通教室なんです。今までご覧いただきましたが、2つの校舎の1つは新築で、もう1つは改修しております。この2つを真ん中部分の廊下でつないでおりまして、2つの校舎を行き来できるようにし、1階、2階、3階と全て廊下でつないで、この図面で言いますと上下をつないでございます。

そして、最後のページをおめくりいただきますと、プールでございますが小学校と中学校に別々に設けました。他の自治体などで小中一貫校を作っている学校によっては、プールが1つで床を可動式にして、小学生用や中学生用の水深にすることを機械で床を上げ下げして1つのプールを使うという事例もたくさんあります。杉並和泉学園をどうするかプールの検討をした結果、小学校と中学校と別々に建物がありますので、それぞれ別に設けることになりました。メンテナンスなども考えた場合、例えば床の上げ下げをする機械のメンテナンスや、それからプールの水の排出や注水、それらの効率性などを色々考えた結果、2つ別々に設けられるのであれば設けるということで、このような設計をしたところでございます。

更には、屋上運動広場というのがございますが、これを小学校と中学校に設けます。この右上の屋上運動広場というのは、これを左上の図に重ねていただきますと、その部分に小学校のプールの上に×印がありますけれど、これはアリーナの屋上部分になります。その部分に小学校の屋上運動広場を設置してございます。そして、下のところには、中学校の屋上運動広場がございます。まだ開校しておりませんし、最終的な教育時程などは先生方でお決めいただくことですが、ここで体育の授業などでもできるような、もちろん全ての体育の授業ができる訳ではございませんが、利用可能です。と申しますのは、ここは1つの条件として学校の改築は大体工事に2年かかります。その2年で竣工して学校を開校する。その次の1年かけて外構工事、いわゆる運動場を整備します。つまり、完全に全ての工事が終わるには3年かかるのです。

そういうことで杉並和泉学園でございますけれど、一番最初のところに戻っていただきますと、神田川沿いの校舎の解体や校庭の整備ですが、この工事には学校が開校されて更に1年かかる工事が必要になります。その間、小

	<p>学校棟と中学校棟の上にある屋上運動広場を活用したり、もちろん体育館も使いますが多少まだ不便は続きますので、こういった場所で児童・生徒が運動不足にならないようにしていただきます。もちろんこれだけで賄いきれない部分については、近隣の学校などの運動場を使わせていただくということも考えております。このように様々なデメリットを何とかメリットに変えていくという計画で、このような設計をしたところでございます。</p> <p>よく他の小中一貫教育校を他の自治体などに見学に行った場合、見学に行かれた方のご質問でよくあるのが、「小学生と中学生が一緒のところで生活をしていて大丈夫なのか。危なくないのか。体格が全然違う。」というようなことです。これは、見学に行った場合に、言ってみれば、見学を受け入れた学校側は悪いことはそうなかなか言えないこともあると思います。ただ、客観的に色々見て、色々な情報を得たところによりますと、例えば、小学生と中学生が休み時間にぶつかってけがをしたとか、そういったことはあまり聞いたことはございません。よく聞くのは、中学生がやっぱりお兄さん、お姉さんという立場で小学生を見るようになること。低学年の子はもちろん6年生、5年生の児童は、1年生、2年生を今もそういう目で見ているのですが、更に、小学生は中学生をそういった目で見えるようになる。</p> <p>ただし、そうは言っても、やはり施設も工夫しております。例えば、杉並和泉学園ですと、小学校と中学校の昇降口は別々にしており、別々のところから入ってきます。授業は当然基本的に別になりますので、それぞれの区画、別々のところで授業を行い、一番多く過ごす普通教室は当然別々になっております。ただ、小中一貫教育を進めていくには、小と中の良いところを取り入れていくということがございます。先ほど冒頭で申し上げた、小と中の先生は同じ職員室にいます。そして、交流室やランチスペース、オープンスペースなど交流できるスペースを設けています。</p> <p>少し戻っていただけますか。3階の平面図の上の部分に武道場兼交流室というのがございます。中学校では、杉並区は柔道が必須になります。体育館でやっているのがほとんどですが、折角、新しい学校ができるということで武道場を作ってはどうかという話があり、武道場を作りました。ただ、武道場を柔道だけに使うのもやっぱりもったいないからということで、兼交流室ということで小学生と中学生がちょっとした交流ができるスペースとして、こういったところも色々活用しながら、杉並和泉学園を開校した後に盛り上げていこうというような計画で、その結果がこういった設計で工事を行うということになりました。ご説明は以上でございます。</p>
会長	<p>ただいま事務局から杉並和泉学園の施設面や色々な特徴の説明がありましたが、委員の方々から質問などはございませんでしょうか。</p>
委員	<p>施設以外でもいいですか。小中一貫に関しての質問でもよろしいですか。もしくは施設面に限るのであれば後で質問します。</p>
会長	<p>先に施設面の話をまとめていきたいと思えます。</p>
委員	<p>図書室は共通でこれは1つということでしょうか。図面を見る限り図書室は1つですよね。</p>

学校整備課長	最近改築した学校は、ラーニングセンターというような名称をつけている学校もございまして、図書室とPCコーナー、ICTの技術が日進月歩でどんどん進んでおりますので、従来のようなコンピューター室がこれからずっとあるとは思いません。ここが本とパソコンコーナー、それから地域資料コーナーというのを一体にしたことにより学習が一度にできる。調べ学習だとか、通常の図書室としての利用だとか、様々な事ができるようなところを1つのスペースとしました。
委員	小・中兼ねて1つですね。
委員	施設のことにに関してよろしいですか。やはり杉並区に限らず、文科省でも地域と共にということでもかなり進められているのですけれど、新しい校舎の中に地域の人が集うような場所みたいなもの、オープンスペースみたいなものはあるのでしょうか。横浜では、何かそういうところを作った学校があったかと思ったのですが。特にはないですか。
学校整備課長	例えば、杉並でいうと区民会議室ですとかあります。そういった形で杉並和泉学園に盛り込んだものはありませんが、この学校は学校支援本部やそれからおやじの会とか、様々な方に支えられ、参加していただいている学校です。ですから会議室とかをご利用いただけるよう1階にございます。
教育施設計画係長	1階にありますし、先ほど説明しました武道場もご利用できます。多分、土曜や日曜の活動が多くなると、当然、玄関からも別の動線を設けて行けるようにします。また、和泉中で今年は実施していませんが、去年まではプール開放をしていましたので、今後どうするかは考えていきたいと思います。
委員	わかりました。
委員	既存の3校は、区の震災救援所になっていましたか。
学校支援課長	はい。なっています。
委員	一緒になったらどういうふうな感じになります。
学校支援課長	和泉中と和泉小は当然同じ場所ですから、震災救援所は残ります。新泉小も地元から震災救援所を残してほしいという要望が防災課に届いておりますので、学校はなくなっても救援所は残すような方向で検討しているようでございます。
委員	そうなった場合に、例えば、備蓄倉庫だとかというのは、この図面にはまだ反映されていないのですか。
教育施設計画係長	備蓄倉庫は校庭の外倉庫に設けます。先ほど説明しましたが、2年で建物の工事が終わり、その後の1年で校庭を整備するときに外倉庫を作りますので、その時に備蓄倉庫も作ります。
委員	わかりました。
学校整備課長	このリーフレットに女の子の絵がありますが、このあたりに備蓄倉庫を作ります。
委員	小学校は、普通教室22室の設定ですが、現在の和泉小と新泉小を足して、更にどれぐらいというか、希望制がなくなったり、あとは一貫にひかれての希望者みたいなことを考えて、22教室の算出基準ですか。

学校整備課長	現状の平成26年4月のデータですが、新泉小が162人で7クラス、和泉小が357人で12クラスです。今、委員がお話しされたように小学校22教室で設計しましたが、普通教室に転用できる形にした教室をプラス2室設けております。中学校は、和泉中が少し少なくて67人で3クラスなのですが普通教室として9教室で設計しましたが、生徒が増えた場合に転用できるようプラス3教室を設けております。
委員	先ほどの通学路の話のときに、現在の富士見丘中はコンスタントに増えていて、高井戸小からも増えて、あと小学校に希望制がなくなれば元々の区域で来る人がいると。あとは、もしかしたら一貫教育ということでやっぱり希望があるみたいに考えたときに、校舎の広さは大体面積として杉並和泉学園と一緒にだとしても、土地の形が違ったりしますよね。そうすると、失礼ですけども、将来を考えないといけないと思うので、何となく増えるかなという予想だと、結構、校舎に面積をいっぱい取られてしまうような気がする。そうすると、益々、公園部分である都の土地を校庭で使わせてという話をすごく必須なこととしてやっていかないと、手狭な学校になってしまうような心配があるなと思いました。
学校支援課長	今は和泉小と富士見丘小の人数は大体同じくらいです。和泉小は320人で、富士見丘小が304人ですから。ただし、和泉小には新泉小が入ってきますが、富士見丘小は小学校2つを1つにするわけではないので。
委員	それはそうですけれど、この学区域は変則的な形ですが、更にプラス条件として、先ほど話していたスクールバスだの何だので、通いにくさがなくなればどんと増える可能性があるかと。
学校支援課長	今の富士見丘小は12クラスですけれど、例えば、建て替えたとしても12クラスでは当然足りるとは思っていませんので、余裕を持った校舎を作っていく必要があるかなというふうに思います。
委員	校舎がやっぱり大きくなると、B-2案にしたときに敷地が小さくなるのが一番ネックだという感じがしたんです。今はすごく形のいい長方形のとても使いやすい校庭を持っていますから、それがどう担保されるかというのが、移転したときに一番心配なことだ。子どもの数の予測が難しい、何となく増えるんじゃないかという気がしております。
委員	今、それに関連していいですか。今のお話は、校舎が大きくなると運動場が狭くなるということで、運動場への影響が一番校地の面積と関係してくると思うんです。杉並和泉学園は隣接する日大でしたか。
学校支援課長	日大鶴ヶ丘高校のグラウンドで、野球部が使っています。
委員	それをお借りしているということがあるというふうに、このパンフレットのどこかに書いてありますよね。
学校支援課長	お借りして体育の授業で使っています。
委員	そうですね。体育の授業でお借りしているというのが書いてあります。 最近、小学校でよく子どもの遊ぶ時間を見ていると、子どもの数が多くなると子どもと子どもがぶつかってけがをした場合に保護者からのクレームが強いので、結構遊ぶ日を1週間のうち2日ぐらいにして、何学年が運動

	<p>場に出ていいとか。要するにそういう安全策をしていらして、子どもも毎日 は外で遊ぶことができないような、荻窪小などはそうなっているのですけれど、 広い運動場に見えても体育館で遊ぶ日と校庭で遊ぶ日を分けたりしています。 それで高学年と低学年がぶつかるということがあまりないというふう に言われているのですが、学校側はその危険を考えて遊ぶ曜日を分けている のですね。今の富士見丘小の場合がどうなのか、あとで副会長から伺いたい と思いますが、荻窪小ではそういうことになっています。</p> <p>そうしますと、遊びの学びというか、上級生を見て遊びが発達するとかそ ういうことがなかったり、あるいは毎日遊ばないので外遊びがあまり上手じ ゃないという状況になっていたりしています。それで、今度は体力的に大き く違う小学生から中学生まで一緒になると、当然うまくいっている事例のヒ アリングも、事故はないというヒアリングもあると思うのですが、そういう 対応が出てくることで事故がないようにするという事は、子どもの運動を 学ぶ場と時間をやはり制約してしまうということになる。子どもたちには、 最近学校くらいしか広々としたところで遊ぶとか、そういうことをしてい ないので、ほとんど家の中にこもっている子どもも多く、運動能力がすごく 落ちているわけですよ。そういうことからすると、学校の校庭というのは すごく重要なので、子どもの数と運動場の面積でどういう使い方をしてい るかということ、杉並区内の小学校とか中学校でどういうふうな使い方をして いるかというのは、やはり検証してもらいたいと思うのです。そういう学 校で安全策を取っていることで事故が起きていないということについても、 やはりあまり望ましくないなというふうに思っているのです、そこら辺を特に お願いしたい。それから、今度のこの図を見ましても、校舎の側には芝生は 作れないからテニスコートになっていると思うのですが、きっとテニスコ ートは中学生用ですから、小学生は休み時間にこれを乗り越えて遠くへ行か ないとならないわけで、芝生の離れたところまで行かなくてはならない。そ ういう制限もあるので、やはりもう少し運動場をうまく使わせることや、子 どもに運動させるということを重視した考え方で対策を練っていただきたい。</p> <p>隣接する公園の使い方についても、かなりどういう使い方が良いかまでも きちんと検証して、東京都にお願いするというふうにしないと、入ってから とか移転が決まってからでは、使い方があまり思ったようではないというこ とになると後悔することになるので、その辺の検証を少しやっていただきた いなというのが希望です。</p>
会長	<p>施設面で少し気になっていたのは、ぱっと見た限りで校舎棟の敷地が結構 大きくて、グラウンドの部分が小さく見えます。プラス、テニスコートが2 面あって、芝生のところの陸上のトラック、中学生が主に走ると思うのです が、数字だと弱いので何百mのトラックなのですか。校庭の敷地面積はある のですが、1周何mのトラックができていますか。</p>
委員	<p>200mくらいではないんですか。400mは取れないと思います。200 mは無理か。</p>
会長	<p>200mは取れないのではないかと。</p>

副会長	今の富士見丘中は何mですか。
会長	150mです。200mはこれ取れていないですよ、多分。
教育施設計画係長	今日は資料を持ってきていないのでわかりませんが、芝生のところで見ていただくと芝生が今2,800㎡あります。大体2,800㎡というのは、今の和泉小の校庭の広さなんです。それ以外に、和泉小の校舎と体育館の建っているところを壊して校庭にしますので、今よりははるかに大きくなるということと言えます。トラック1周150mで富士見丘中と同じですね。
委員	狭いね。
委員	それで、小学校と中学校が一緒ですからね。
会長	多分、このカラーのパフレットの左の上を野球場として考えていると思うのですが、外野に芝生が中途半端に入ってくるので、片方に芝生がなくて片方には芝生があるみたいなグラウンドになっています。だから、これも野球場としては使いづらいと思う。結局、中学の体育の授業を考えると、芝生の上では体育の授業はできないので、非常に中学生の運動量という部分では、すごく使いづらいグラウンドだなというのが感想です。体育の元教員としては、その感想が一番です。これで中学の体育は大丈夫かなというような感じもしないでもないです。
委員	実際、施設面は一緒になって良い面はかなりあると思います。例えば、給食関係とか、それから特別教室なんかは両方が一緒に使っても全然構わない部分もあるし、中学校の器具に触れるということも可能だと思うのです。一番問題は、屋外のスポーツ関係だと思うのです。
会長	杉並で3年目なんですけれども、インドアスポーツの出身なので、体育館が広いのはとてもありがたいのですが、体育館が広い割にグラウンドが狭いんです。例えば、多摩地区は体育館は狭いけれど、グラウンドが広いんですよ。だから、子どもたちのストレス発散というのは、逆に言うことができるんですよ。富士見丘中のグラウンドと体育館の広さはそんなに大きな差がないくらいです。だから、そういう面では体育館の使い勝手はいいんですが、グラウンドがもう少し広くないと、すごく中学の子どもたちを考えるとやはりストレスが溜まるころかなんていうふうに思うんです。
委員	それこそNHKグラウンドがキーですよ。そうすると、まさに先ほどの話のように本当にどういうふうに使えるのか、よく考えてからでないかね。
委員	その辺をやはり要望としてはきちんとっておかないと、うまくいかないと後で後悔することにならないよう。
副会長	先ほど委員にご質問いただいた、児童数や面積とけがの件数とかそのあたりのことなんですけれども、今は資料が手元にないので正確性に少し欠くところがあって申し訳ないのですが、まず、資料のように本校は304人の児童がいます。休み時間に全員が校庭に出ているかという、そうでもないところが多いんです。割と遊んでいる子どもたちは自由に遊べているかな。ただし、ボールを蹴っていい時間帯とか、そういう約束事はあります。あと、衝突することが全くないかということをお問われると、やはり誰と誰がぶつかったという話は、正確ではないかもしれないけれど、月1回ぐらいはそういう

	<p>話は聞こえてきて、どの程度という、ああ、このぐらいならいいね、よかったというのがほとんどなんです。その衝突したことによって、すごく大きな事故、「これはもう大変だ」ということは起きていませんが、結構ぶつかったりはしているということはありません。ただ、子どもの人数が増えていって、本校は校庭が割と広く小学校としては広いほうだろうなと、杉並区内ではと思っているのですが、ぶつかるということは起こっているんで、人数が増えるとその辺はどうなのかなと思っています。</p> <p>先ほどの荻窪小の話では、人数は多く校庭は富士見丘小より狭いのかな、そうするとやはり約束で何年生はいつとか、そういったことが必要になるであろうなというふうに思います。子どもの人数と校庭の広さと衝突する事故の何か統計とかが、もし区とかでなくて都レベルでもどこかで調べたものがあれば、ちょっと知りたいところだと正直思います。学校によっては、校庭の広さによって色々工夫をしていると思います。あとは、先ほどの小学校、中学校の校庭のことについては、本当に欲を言ったら切りがないというところなのかなと思いますが、やはり校舎が立派になるというのは子どもたちにとっても素敵な良いことなんでしょう。ただ、校庭の使い勝手はどうなんだとか、広さのことを考えると、やはりそこにも課題はあるのかな。</p> <p>これからそれぞれ東京都の公園課なのか、交渉になってくるという話ですが、企業からの用地買収がある場所プラスアルファのそれをしたとして、そこを前提として都と交渉をしながら、どのぐらいの防災拠点というところを出しながら、校庭として使えるような公園の場所をどのぐらい確保できるのか。そういったところがこれからの交渉になってくるのかもかもしれないが、やっぱり欲を言ったらきりがないかもしれないけれど。</p> <p>例えば、港区の港南小学校ですが、小学校と中学校が人口芝の校庭です。かなり新しい芝を入れて、摩擦でけがをすることのないような、そういった芝を入れている学校が小学校と中学校で同じ校庭というか、小学校部分と中学校部分の校庭を分けて、校舎も校庭から完全に離れているんです。それで、結構広いところを使っても問題なくできていると。小学校の人数は、今はもう1,000人を超そうかというような勢いがあるのですが。そういう事故の話とかは、あえて聞いたことがないのでわからないんですけども、結構広めの所を小・中という形で使っているという場所もあったりする。</p> <p>なので、もし仮に小と中が一緒になってこちらにということになったときは、校庭のことはそれぞれ東京都とうまく交渉していただいて、防災拠点としては東京都もいいなと思えるような、あとは、小学校、中学校としても区としてもいいなと思えるような広さを何とか確保できるとお互いにありがたいかなと思います。</p>
会長	<p>広さが必要かなと思いますよね。今、副会長の話で港区港南中というのがあって、しょっちゅうお伺いする学校なんですけれど、ちょっと規模が違い過ぎるので中学校のグラウンドも300mトラックができる。それにプラス小学校のグラウンドが別にありますから、小学校の校舎までは遥か彼方向こうというイメージの学校です。それぐらい離れている学校なので、あれなら</p>

	<p>ぶつからないだろうなと思いますが、そこら辺の違いが出てくるかと思うのです。</p> <p>さて、時間も経過しておりますので、まだご意見をいただいている委員の方からも一通りいただきたい。施設のことでも結構ですし、それから小中一体型という部分で今までのデータを参考にしながらのご意見でも構いません。また、B - 2案を推進していくためにも、何かそのあたりのご意見もいただければと思います。委員から順番によろしいですか。</p>
委員	<p>杉並和泉学園の芝生と同じスペースで芝生の面を入れると、中学生が運動したらどうなるかということ。高井戸小でも芝の管理に随分苦労なさっているみたいで、その辺のところも芝生っていうのはどうなのかなと思う。どうしても必要であれば、またその後で色々使ってみてからでも遅くはないんじゃないかなというふうな気がしますね。</p>
委員	<p>中学校にも通学路というのはあるのですよね。</p>
会長	<p>通学路という形ではありませんが、一応は決まっているというほどではなく、自分たちで決めたものが通学路です。</p>
学校支援課長	<p>教育委員会で指定しているのは、小学校だけでございます。</p>
会長	<p>ここというのはいないです。中学生は、意外に家から近い距離で来る。</p>
委員	<p>末端の枝葉になると、それは各家庭があるから違うのでしょうかけれども、一緒だった場合は、できたら同じ道を小学生も中学生も通えるようにしていただきたいなということと。それともう一つ、杉並和泉学園の校長室は1つなのですが、中学校の校長先生が小学校の校長先生も兼ねるのですか。</p>
学校支援課長	<p>教員組織ですけれど、校長が1人で、副校長が3人という体制になります。</p>
会長	<p>体制が変わるそうです。</p>
委員	<p>例えば、月曜日の朝などに朝礼をしますよね。グラウンドが1つだと、小学校も中学校も一緒にやるのですか。</p>
学校支援課長	<p>現在、3校の先生方で検討しております。</p>
会長	<p>多分一緒にやることはあると思いますよ。</p>
学校支援課長	<p>入学式、卒業式は別々ですけれど、色々な行事は一緒にやって交流を深めるということはあると思います。</p>
委員	<p>運動会なんかもそうなんですか。</p>
学校支援課長	<p>運動会も色々考えたんですが、一緒にやっているところもあったり、違うところもある。実は、渋谷区の本町学園という、3年前にできた学校に視察に行ったんですが、運動会を1年目は一緒にやったら、非難ごうごうというか、中学生の活躍する場がないことや、狭いところに9学年の親が集まりきれないということで、2年目から別々にしましたというふうに聞いております。また、そういったところも学校によって違います。</p>
委員	<p>1年おきにやるのかな。</p>
学校支援課長	<p>それはありません。運動会は毎年やると思います。</p>
会長	<p>この平面図を見たら、校長室が広くていいなと思いました。普通教室ぐらいありますよね。</p>

委員	<p>芝生のことが気になっていて、やはり芝生を育てるのはすごく大変だということをお伺いしているのです。杉並区の学校は、どうしても芝生を作るのがメインというか、多いですね。校庭に芝生というのが、それはもう学校を作るのに付いてきているものなのですかということをお伺いしました。</p>
学校整備課長	<p>芝生の効用は様々ありまして、平成13年に和泉小が杉並区で一番最初の芝生化でございました。この学校は芝生を育てる体制として地域のバックアップ体制が非常に良く整っていて、芝生の生育が非常に良いところです。</p> <p>造園業者に聞いても最終的にはわからないということがよくあるのですが、土壌によってはどうしてもどれだけ手を尽くしても芝生の状態がうまくいかないというところがあります。当初はなるべく広い面積でと考えておりましたが、長年やってきまして学校によっては本当に温度差があります。芝生が良いという小学校は、やはり芝生のところで裸足で遊んだ方がいいんだという考えもある。一方、芝生の養生期間は長いし、やはり芝生を校庭の全面にしなくてもいいんじゃないかというような意見もあり、学校によって様々ありました。教育委員会としては、できれば人工芝というのはちょっとほかのところ委員から発言がありましたけれど、自然の芝は緑化という目的もありますので、人工芝を導入することは考えていないんです。</p> <p>ただ、様々なデメリットもあるということは承知しておりますので、全面芝を今はやりません。万が一というのも変ですけど、どこかの学校で機運が高まり全面芝を来年度からやりたいというような話が出れば、もちろん対応します。今は、部分芝でも、もし芝生化してみたいという学校があれば、「じゃあ、部分芝をやってみますか。」と、100㎡ぐらいの芝生の場所を設けて、そこで例えば小学校の低学年の児童がお弁当を広げて食べたりとか、あるいは、そこでひっくり返ったりとか、でんぐり返しをしたりとかというのを体も汚れないし、けがをしないというような意味で、そこを使ってもらおうというようなことで、そちらのほうにシフトしております。</p> <p>この杉並和泉学園は、前から和泉小の芝生がありまして、ここは結構色々なところで取り上げられている芝生でございます。やはり新しい学校を作っても、この芝生は残していこうということもあったので、この計画になっているのです。例えば、仮にB-2案で富士見丘地域に小・中学校ができた場合、そのグラウンドに必ず芝生を設置するということではありません。もし機運が高まり芝生をやろうということになれば設計の中で盛り込みますが、必ずそれがもうデフォルトで決まっているという訳ではありません。</p>
委員	<p>意見を聞いていただけということですか。</p>
学校整備課長	<p>もちろんそうです。それは、それも全く一から考えていくことになります。この地区で例えばB-2案になれば、先ほどからお話がでているように、都立公園、東京都という大きな壁はありますが、そちらの公園はまさしく広大な芝生を持っている公園があるということになります。</p>
委員	<p>もしB-2案になって、先ほどシルバーの配置図がありましたよね。全体的に見て他の小学校のエリアに比べて、富士見丘小のエリアって広いのですけれども、シルバーの数って7人ですか。副会長が多いほうですと話されて</p>

	<p>いましたが、少ない児童数の久我山小も7人なんですよ。もう少し、もしあの配置で行うのであれば、実際はもう少し人数を増やしてもらいたいようなことも要望できるものなのですか。子どもたちのことを考えると、見守る人が増えたほうが遠くから来るのにも安全面も増えていくと思うんです。ただ、バスが出ると、それまで人は要らないかもしれないですけど、中には、バスでなくて歩いて帰りたいとか、そういう子も出ると思うので、その両方を考えていただいたらなと思います。</p>
学校支援課長	<p>今は確約はできませんが、そういった要望を出していただいて、まとめに入れていく必要があるかなと思います。出していただければと思います。</p>
委員	<p>杉並和泉学園は、校長先生が1人で職員室が一緒という話で、私も高井戸出身だったので、多少はもめ合ってしまうような気がするのですが。</p>
委員	<p>そこはでも考えないですよ。</p>
学校支援課長	<p>小中一貫校と、サテライトの高井戸小との関係の話ですね。</p>
委員	<p>小中一貫校。連携ではなく一貫校では、ほかの地域では4 - 3 - 2とか、色々な学年を変えてやっているところが色々あるんですけども、杉並は6 - 3でやっていくという話を伺っています。それはなぜでしょうか。6 - 3でいいと思うんですが、もちろん何か色々考えた結果、6 - 3でやっていこうという話になったんだと思うのですが。</p>
学校支援課長	<p>今の小学校、中学校の良さを生かすために6 - 3で堅持するというふうに聞いております。</p>
委員	<p>わかりました。あと、小中一貫になった場合、ただ、小学校、中学校それぞれ学年の終わりがありますよね。6年生で卒業とか、中学3年生で卒業とか。ですから、一くくり9年間で1つのカリキュラムというのも大事なのもかもしれないんですけども、小学校6年で1つの節目であるとか、中学校の3年間で節目みたいなものがあると思うんですが、それはなくなるんですか。</p>
学校支援課長	<p>ですから6 - 3を堅持するということは、そのカリキュラムを堅持しまして、前倒し教育は杉並区はやりません。ですので、6年は6年でやります。ただ、系統性、連続性を9年間持つということであって、あくまで小学校は小学校のカリキュラム、中学校は中学校のカリキュラムでございます。</p>
委員	<p>小学校の乗り入れとかっていう形で、教員同士の乗り入れっていうのはやられているんでしょうか。中学校が小学校に、小学校が中学校にということ、やっていますか。</p>
学校支援課長	<p>例えば、中学校の数学の先生が小学校に行って、小学校の算数を一緒に教えるとかっていう乗り入れは、小中一貫教育の全校でやっていますから、そういうケースはいっぱいあります。</p>
委員	<p>なるほど。その場合、例えば小学校の教諭と中学校の教諭って、全然違いますよね、学んできたことというのが。</p>
副会長	<p>文化がかなり違いますから。</p>
委員	<p>文化が違います、先ほども話された。その文化もそうなんですけれど、いわゆる小学校は1つのクラス担任がある程度の教科を持つという、そういう制度ですよ。中学校になると担任はいますが各教科の教諭がいるというこ</p>

	と。それは、元々は小学校という特殊性がありますよね。学年段階で成長していく、そのために担任制というのがあって、その担任がほとんどの教科を教えるという制度になったんだと思うんです。それと中学校との兼ね合いとか、かみ合いですよね。それは、どういうふうにこれからやっていくとか、乗り入れというのは、結構弊害が出ているという話を色々聞いているんですね。実は、中学校の片乗り入れが結構多くて、小学校のほう結構困っているとかという話を品川のほうでは伺っています。
学校支援課長	小中一貫教育を3段階でお示しますと、杉並区は3段階でやるんですね。まず、小学校と中学校の先生同士が知り合うのが第1段階。次に、理解し合う。最後は生かし合うというのをこの10年でやっていこうというところの、最初の知り合うから2段階目に入ったところだと聞いております。今の話のように、小学校の要するに1段階ずつ積み重ねていく教育と、中学校はあえて段差をつけて子どもたちに学ばせる教育のいいところを取り合うために、先生方が常に研究しながらやっているという形で、その弊害をなくしてメリットに生かしていこうというのが杉並区の小中一貫教育の方向性です。
委員	そうすると連携の公務分掌みたいな形で、役割みたいなものを、例えば、小・中のどちらかの先生に専任で置くみたいなことは考えているのですか。
学校支援課長	専任ですか。
委員	専任です。公務分掌の形で、役割ですね。例えば、プロデュースするとか、小中一貫のその教科の内容をうまくかみ合うような形の連携プロデューサーみたいな形ですね。教員で。
学校支援課長	プロデューサーではないですよ。要するに、もうしょっちゅう小・中の先生がお会いになって研究しているというふうに聞いています。 ちょっと詳しくは会長に聞いていただいたほうが。
委員	特別にそういう部署を置かずに、それぞれの教員同士で。
会長	要するに、数学なら数学。算数を教えるときに、数学のほうに確認をとってもらったり、お互いがこういうふうにやったほうがいいという。例えばそういう例ですよ。だから、お互いに授業の方法を学び合うとか、中学校の専門性を理解していただいて、小学校の先生のほうの専門性も生かしていただいてというところでもいいと思うんですよね。
委員	わかりました。結局あれなんです。この間もご心配になっている方もいらしたと思うんだけど、こういう話し合いはやはり大事なんです。色々な例えば小中一貫でも、新しいシステムというのは、功罪が必ずあると思うんです。でも、折角やろうとするのなら、なるべく罪のほうを少なくして、功のほうを大きくしたほうが良いと思うので。それにはいっぱい情報というのは公にして、皆さんがそれを討議するのが一番良いと思うんです。今言った話というのは、前は1回目だったので、そのお話はあまりしなかったのですけれど、今回お話を色々なところでたまたま仕事柄んな学校に行けるので、聞いてきてやっているところ、やはりいい話もいっぱいあります。でも、ちょっと困ったなという話もある。その困ったなという話をいっぱいいただくと、その困った部分をできれば困らないようにしていくという

	<p>のが、後からやるものの強みだと思うのです。</p> <p>一番最初のときに、例えば、杉並区でも先にここにあるような杉並和泉学園もそうですし、高円寺のほうでもございますよね。だから、その後うちの学区はあるわけだから、できれば同じ鉄は踏まないで、できれば良い方向にやっていきたいなと思うので、すみません、時間を取らせていただいて。</p> <p>まだ、あるんですけれども、今度おいおいまた伺います。すみません、よろしくお願いします。</p>
委員	<p>すみません。杉並和泉学園の例で質問があるのですが、この学校の場合は、今、本校とかが懸念しているような、一貫になった富士見丘小と富士見丘中以外の小学校から中学校に入る子がいるという話題が前回あったと思うのですが、この場所に限ってはないんですか。</p>
学校支援課長	<p>いえ、あります。現在の新泉小と和泉小の通学区域を合わせるわけですが、それと和泉中の通学区域とは合っていません。3箇所違うところがあります。新泉小の通学区域で中学校は和泉中ではなく泉南中に行く子。更に、和泉小の通学区域で中学校は大宮中に行く子。更には、永福小の通学区域で中学校は和泉中になる子がいます、この3つがあります。これについては、今回27年、もう来年開校のために一気に変えると混乱を招きますので、当面その食い違っているところについては選択制を例外的に残す形になっています。平成27年に入学する1年生が卒業するまでは、そういった形を続けて平成33年に一致させようという計画になっております。</p>
委員	<p>わかりました。</p>
学校支援課長	<p>高円寺でも、やはりそういう地域がございまして、そこについては、やはりそういう少し変則的な選択制を取っていくような形を考えています。</p>
委員	<p>それは、各家庭に選択をとということですね。</p>
学校支援課長	<p>そうですね。入学するときということですね。</p>
委員	<p>わかりました。この地図で見たときに新泉小に行っていた子が、この斜線の新しくできる敷地に、今までここだった子がこっちに来るっていうイメージですよ。地図でちょっと距離があまりよくわからないのですが、やはり通学時間がさっきから話題になっている、遠くなってしまうということが実際あったわけですよ。あるんですよ。</p>
学校支援課長	<p>遠くなります。ただ、ここは本当はこの富士見丘地域と違って、学校が近くにいっぱいありますから、それほど問題になるような距離ではないと。</p>
委員	<p>心配するほどではない。わかりました。</p>
委員	<p>先ほども聞いたのですけれども、この距離の問題なんですけれども、先ほど言ったように、小学生のことしか頭になかったものですから、これ一貫教育になると、お兄ちゃんとかお姉ちゃんとか、やっぱりこの地域から結局通ってくるわけですよ。そうすると、学校が終わった時点での一貫教育ということもできるわけですね。お兄ちゃんとお姉ちゃんと一緒に通って来るということもできますよね。</p>
委員	<p>登下校のってということですね。</p>
委員	<p>集団登校ですか。</p>

委員	だから、そういうのを考えると、最初に質問したよりかは少し安全なのかなと。終わった時点、それから始まる時点のときに、近所のお兄ちゃんとかお姉ちゃんが連れて来てくれば、何とか小学校1年生でも、2年生でも、22分、25分の間が、もう少し短く感じられるかなっていうのを今ちょっと感じたところです。
会長	否定しちゃいけないと思うんですけども、ちょっと生活時程が違うんですよ。小さい子たちは帰りが早いんです。中学生は遅いので、その子たちと一緒に帰ることはできないです。
副会長	朝の登校はできるかもしれないですね。
委員	中学生になると、もう兄弟でも行動は別々ですよ。
委員	移転の話というのは、もうぜひ推し進めていただきたいというふうに考えています。やはりここにこれだけの土地というものがあり、それを有効利用していくには非常に良い話だなと思っております。公園もあります。それもうまく利用することにより、広い施設を利用できる小学校と中学校ができるのではないかなと思っております。色々な弊害とかはあると思いますが、推し進めていただきたい。あと、商店街の人間ですから、この富士見丘地域で富士見丘と呼んで名前をつけているのは商店街、町会、それから学校、駅、それだけしかないんです。ですから、ぜひとも大事に残していきたいというふうに考えております。また、この地域には、公共の公の施設がないんですよ。区の施設ですね。小・中学校はありますけれども、区民会館とか、そういったものがないわけですから、そういったものも合わせて、この場所に何らかの施設ができたらいいなというふうに考えております。
委員	<p>先ほどから話が出ていますけれど、通学の安全というところで移転のB-2案にというときには、必ずやっぱりスクールバスというところをきっちり一緒に要望していただきたいと思うのです。というのは、通学距離が長くなると認められてはいませんが、小学生でも高学年になったりすると自転車に乗りたくなっちゃいますよね。やっぱりすごく通学でそういうことになるのは危ない。もしかしたら遠くということで学校までは乗って来ないけれど、途中まで乗ってきて誰かの家に置いてみたいなこととか、色々なことを距離が長くなればなるほど色々な危ないことがあつたりしますので。</p> <p>そのあたり、絶対にどう考えてもこの地図でいうと、この距離を小学生の足では無理だという前提でスクールバス、あるいは、すぎ丸の新しいルートの時間限定運用でもいいですけども、何らかの形で担保していただけないというふうに思う。</p> <p>また、今日の区議会だよりが何か広報と一緒に来まして、学校のことでなくて高井戸公園のことを言及している区議がいらしたような記憶です。蛭をやっているところだから、その辺きちんとしてねみたいな、そういうようなご意見を議事録で見ました。ですから、今の委員のお話みたいに、この場所、道の予算なり、条件なり、特色なりを考えて、共存する形で学校も受け入れられるといいなと。何となく1回目のときに心配して、相当色々言っている区議がいますよという話をさせていただいたかと思うんですけど</p>

	<p>も、いい形で、とにかく皆がこの条件なら絶対そうだよねというふうに、反対者がいないような内容で作っていただけたらなというふうに思っています。</p>
委員	<p>皆さんがお話しされているようなことと同じです。通学路のバスのこと、あとグラウンドですね。校庭のこともしっかり、都の公園とちゃんと交渉をしていただきたい。校庭の使い方を分けたら、それで事故はなくなるのでという考えではなく、幼稚園なんかもそうですが危ない遊具を取れば事故がないではなく、危ないことや事故をいっぱい出していただいた中で、本当にじっくり検討していくことで、内容というか質というんですか、外側の形も箱もそうなんですけれども、使っていく質を上げていくことを十分に検討していただきたいと思います。図書室を地域の方が使えたらいいですね。それもぜひ検討されてみたらいいと思います。</p>
委員	<p>杉並第十小のときに住民参加で公園と小学校が一体になる計画を作ったのですが、公園の広さがこちらの公園と蚕糸試験場の公園とでは全然違って空間の質も違います。先だってちょっと外周を全部回るというイベントに参加しました。別の委員も一緒に参加されましたが、やはり公園周辺の縁際の考え方とか公園そのものをどう使うかということと、学校との関係というのが杉並第十小ほど単純ではないなというふうに思いましたので、やはり公園の使い方についても、どういう使い方を想定されるかということをしっかり把握する必要があるなというふうに思いました。安全面からいっても色々なことがあり、運営面からいっても非常に重要だと思いました。</p>
委員	<p>今も公園の話がありました。今日もたくさん意見が出ていましたけれど、学校側からすれば運動場の一部という考えがまず第一ですが。東京都側で個々の公園の位置づけの大きな柱の1つが確か広域的な防災ということでしたから、そっち側からすればまた逆に学校にお願いしたいこと、その辺、取り引きとっては言葉は悪いのですが、お互いのメリットが生きるようにする。当然、この新しい事業の中の小・中学校が、新しい校舎になれば避難所的な意味でも隣が防災的公園となると、普通の小・中学校より特段の何か配慮というのが必要になってくるとか、ややそういう広い見地から、こちらがスペースがほしいねというだけではなく、考えていただけたらいいなと思いました。</p> <p>それから、今日の話題で出ていたように、地域の方々が使える施設を学校の中に作っていくというのは、やはり時代の趨勢だと思います。杉並和泉学園が意外とあまりその辺の配慮がないのは、ちょっと周りに色々な施設があるからだとは思いますが、今後は地域で使えることも必要だと思う。それは学校経営にとってはちょっと面倒くさいことだとは思いますが、いい面もあると思うのです。地域の方々が学校に関心を持つということで、それも1つの論点かなと思いました。</p> <p>それから、もう1つは杉並和泉学園でも学童クラブが1室、割と大きく図面上に取り入れられるわけですが、この問題も多くはまちが学童保育という名称でやっていますけれど、非常に多分流動的だと思うんですね。ただ、これも時代の趨勢としては、多くの保護者の方が放課後も学童クラブ的なもの</p>

	<p>のところに入りたいねという人たちは増えてくる趨勢はあると思うので、これも現在の富士見丘小の場合は、学校外にあるわけだけれど、それをどうするのかというのは、この先5年、7年先には考えなければいけない話だ。もう一つ、あんまりよく理解できていないけれど、学童クラブと似たような言葉で児童館という施設がある。その児童館の機能というのは、本来が学童クラブと全く違いますよね。学童でやらなくて、遊ぶための児童館ですよね。その辺も、この区域の中で一体どうなっていくのかっていう、かなり幅広の教育問題も念頭に議論していただけたらいいなと感じました。</p>
会長	<p>今、委員から学童クラブの話がありましたが、学童は児童館から学校の中へというふうな、杉並はそのような流れのようなのです。ですから、児童館から学童クラブはなくなるという。児童館は児童館でまた別ということに。</p>
委員	<p>本来の機能に特化するということですか。</p>
会長	<p>学童クラブは、小学校の敷地内というような流れに今はなっています。</p>
<p>4 閉会</p>	
会長	<p>時間の関係もありますので、全体を通して何かありましたらご意見をいただきたいのですが。それでは時間も押しておりますので、最後に次回のことも含めて事務局から連絡があれば、よろしいですか。</p>
新しい学校づくり係長	<p>本日もたくさんご意見をいただきましてありがとうございました。次回の懇談会なのですが、少し期間を置かせていただきまして、9月には区側に区議会の日程等がございますので、調整させていただいて9月中旬から下旬ぐらいに予定できればと現在は考えております。</p> <p>また、委員の皆様のご都合をお聞かせいただきながら、日程調整をさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>なお、本日の議事録の要旨がまとまりましたら、各委員に内容のご確認をお願いしたいので郵送させていただきます。よろしく願いいたします。</p>
会長	<p>本日は長時間にわたりありがとうございました。第2回目の懇談会をこれで終了させていただきます。ありがとうございました。</p>